

千葉氏の分立と南北朝の内乱

結城合戦と古河公方の成立

永享の乱の後、下総国結城城の城主であった結城氏朝は、鎌倉公方足利持氏の三人の遺児をひきとり室町幕府軍と戦いましたが、敗れて自殺しました(結城合戦)。この後、三人の遺児の内、二人は討たれましたが、末の万寿丸は助けられ、成長して鎌倉公方になり、成氏と名乗りました。成氏は、やがて関東管領上杉憲忠と対立し、憲忠を討ちましたが(享徳の乱)、将軍足利義政の派遣した幕府軍に攻められ、下総国の古河に逃れました(古河公方)。この事件の後、関東の豪族達は古河公方側と関東管領上杉側に分かれて戦うようになりました。



足利義政像 京都市等持院蔵

室町幕府八代将軍。兄義勝が没すると将軍を継ぐ。関東公方足利持氏の子万寿王(後の古河公方成氏)を関東に下向させた。また下総で千葉氏宗家が滅亡すると東常縁に関東下向を命じた。



結城氏朝 『結城合戦絵詞』より

関東公方足利持氏が鎌倉永安寺で自害すると、氏朝は、その三人の遺児を迎えて下総国結城城に籠もった。しかし、嘉吉元年(1441)上杉憲美など幕府軍に攻められ、自害した。



古河公方館跡

鎌倉を追われた成氏は、下総国古河に逃れ、ここを本拠地として勢力を振った。



結城城跡 茨城県結城市

結城氏朝の居城。嘉吉元年(1441)上杉憲美など幕府軍に攻められ、落城した。(写真提供:結城市)

足利成氏書状
古河市立博物館蔵
足利成氏は、古河公方初代。この書状は、成氏が岩松左京亮に宛てたもの。

敵足利柱乱入無
是非次第候速有御
勢違可被急合戦候
恐々謹言
七月十七日
成氏(花押)
岩松左京亮殿

